

平成30年度第1回加美町総合教育会議議事録

開催日時 平成30年12月18日（火曜日）
午前10時00分～午前11時30分

開催場所 加美町役場宮崎支所2階第二会議室

出席者 加美町長 猪股 洋文
加美町教育委員会委員 大場 幸 同 委員 田中 美知子
同 委員 鎌田 稔 同 委員 大宮 信彦
同 教育長 早坂 家一

事務局 総務課長 佐藤 敬 教育総務課長 二瓶 栄悦
生涯学習課長 遠藤 肇 体育振興室長 上野 一典
教育総務課長補佐 川熊 裕二 同教育総務係長 青木 真郷
総務課長補佐 伊藤 一衛

議 題

平成31年度予算編成に向けた教育施策に関わる協議

午前10時00分 開会・開議

○佐藤総務課長 只今より平成30年度 第1回 加美町総合教育会議を開会致します。それでは初めに、猪股町長よりごあいさつを頂きます。

○猪股町長 皆様には、日頃から青少年の教育向上と子育て支援の整備にご尽力いただき誠にありがとうございます。

加美町のまちづくりのビジョンとして、善意と資源とお金が循環する人と自然にやさしいまちというものを掲げております。我々が理想とする持続可能なまちにするために、里山経済の確立、健幸社会の実現、こども子育て応援社会の実現を柱とし、主に教育に関しては三つめの柱であります「こども子育て応援社会の実現」に

深く関わっていくものであります。

我々といたしましても、未来を担う子供たちが心身ともにたくましく成長することを願って様々な施策を講じてまいります。なお一層皆様と共に努力してまいりますと思います。

加美町は、特に里山経済の確立に重点を置いて、地方創生の事業に取り組んでおります。イカノエ戦略と申し上げておりますが、イの移住定住につきましては、27年度から、地方創生の事業がスタートし、首都圏での移住定住セミナー、子育て世代の宅地分譲などを行った結果、今年の11月末までに町の制度を利用して、123名の方が加美町に移住してきました。今年すでに3組の30代の方が移住してきました。また、1組の方が移住する予定です。この4組の方々に共通するのは、30代でお子様はこれからというご夫婦です。教育の充実がこれから移住定住を推進していく上で重要な点であろうと、そして子供たちをしっかりと保育園やこども園で預かってもらい、きちっとした教育が加美町でもできるといったポイントも大きいのだと思います。

小野田、宮崎は条件不利地域とってしまいますが、子育てに関しては、東京が一番の不利地域なんですね。子供を産んでも預ける場所がない、子供を育てる場合も犯罪など様々なリスクがあると。そう考えると加美町は子育てをしていく上で条件に恵まれた地域だと思っております。

移住定住をはじめ地方創生を推進していく上でも、教育が大きなカギを握っていると思っておりますので、皆様と共に教育の充実を進めてまいりたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

○佐藤総務課長 ありがとうございます。それでは直ちに議事に入りますが、それでは町長の進行で会議を進めていただきます。

平成31年度予算編成に向けた教育施策に関わる協議

○猪股町長 それでは、平成31年度予算編成に向けた教育施策に関わる協議について、教育委員会の方から説明をいただきます。

教育総務課、生涯学習課、体育振興室：資料説明

○猪股町長 全体の今年度の要求ベースはどのようなのですか。

○二瓶教育総務課長 これからヒヤリングを受けるのですが、教育委員会の事務局費、それから小学校費、中学校費、幼稚園費を合わせて、平成30年度との比較で2億

5千万ほど多く要求があるようでございます。

○猪股町長 エアコンは別ですね。今年度は129億という当初予算で、その中で何とか収めなければならないという事ですので、これから企画財政課の方で調整し、どこまでできるか、全部が認められるかどうかは分かりませんが、優先順位をつけていかなければならないかと思えます。

特に皆さんの方で、これは絶対に新規事業として必要だというものはございませうか。学力向上でかなり新規事業は増えているのです。

○早坂教育長 指導主事の配置については大きいかもしれません。今、行政経験で教頭経験があり、算数・数学の免許を持っている指導主事の配置をお願いしています。特に加美町の場合、今年度は算数・数学に特化して総合教育センターの支援を受けたのですが、来年度も同様の取り組みをしようかと思っており、それで算数チャレンジ大会を新たな事業として計画しています。

○猪股町長 これは県費負担ではないのですか。

○早坂教育長 町負担です。教育長連絡会の方でも、今回も県に要望は出しているのですが、県の財政上、なかなか県費負担では難しいというのが、県の教育長の回答です。

○猪股町長 他の自治体でも受け入れている所は、全て自治体負担なのですか。

○早坂教育長 そうです。大崎市は確か6人ぐらいいたかもしれません。非常に金額は大きいですね。

○猪股町長 県が教育関係に力が入っていないと予算的に難しいのです。何十年前から、宮城県の学力は低いし、不登校は高いし、やはり県の力の入れ方なのですよ。

○早坂教育長 併せて、教育長会の方で35人学級をずっと要求しているのです。仙台市は来年度からなりますが、その辺りもなかなか良い回答がもらえていない。小学校の1・2年生と、中学校の1年生は35人学級なのですが、中学校1年生が35人学級で、2年生になったら40人学級になるのですから急に人数が増えるのです。そのストレスがあつて不登校が出ている部分も一部にはあるような気がします。もし学年に40人いた場合、1年生の段階では20人ずつ2クラスになりますが、それが2年生になると40人で1クラスとなります。今、宮崎中学校の2年生がそういう状況です。

○猪股町長 総務課長、この件は町村会からの要望事項に入っていたか確認してください。毎年、町村会で国や知事に対して要望事項をまとめて要望しているのです。その中に入っていないかもしれませんね。いろんな方向から要望してみましょう。あと、指導主事を県負担でという事も、どこの自治体でも望んでいるはずですよ。

○早坂教育長 指導主事を置きたいのだけれど、財政的に置けないというのが各市町

村の実態だと思えます。

- 佐藤総務課長 わかりました。確認し、要望事項に加えます。
- 猪股町長 指導主事を最優先で配置したいという事ですね。それと算数チャレンジですね。
- 早坂教育長 そうですね。子供たちの学ぶ意欲といいますか、それを喚起するために算数チャレンジ、英検・数検の助成、それから町の学力テストを今までは年1回だけだったのですが、中学校で試行的に2回行いたいと考えています。年度初めに1回目を行って、どこが出来ていてどこが定着していないのか把握し、それを意識しながら指導していき、その成果を確認するために12月に2回目を行います。中学校は特に数学が落ちているものですから、中学校で試行的にしてみたいと考えています。
- 猪股町長 科目は。
- 早坂教育長 中学1年生は国・数・社・理の4教科、2年生についてはそれに英語を加えた5教科です。現段階では、まだ小学校では英語は必修科目ではありませんので、1年生については英語は含みません。
- 猪股町長 学力テストは中学校の全学年ですか。
- 早坂教育長 町の学力テストは1・2年生のみです。3年生については全国学力調査があります。
- 猪股町長 英検・数検の検定はどれくらいのお子さんが受験しているのですか。
- 青木教育総務係長 学校の方に問い合わせましたところ、平成29年度ですと、英語検定につきましては中新田中学校67名、小野田中学校97名が受験しております。数学検定につきましては中新田中学校19名、小野田中学校24名受験しています。その前の年につきましても、同数程度の生徒が受験している傾向があるようです。
- 猪股町長 助成があるなしは関係ないのではないですか。学校の熱の入れ方ではないでしょうか。中新田中学校より小野田中学校の方がはるかに多いというのも、宮崎中学校がゼロというのもおかしいです。
- 早坂教育長 今年の情報がありましたよね。
- 青木教育総務係長 今年状況はまだ途中ではありますが、英語検定は中新田中学校30名、小野田中学校38名、数学検定は中新田中学校22名、小野田中学校7名です。
- 猪股町長 宮崎は依然として受験者はないのですか。
- 青木教育総務係長 はい。
- 早坂教育長 学校での指導を併せて、更に町も応援するよ、チャレンジしてみようじゃないか、という意欲の喚起のための呼びかけですね。

- 大場委員 英検だと何級を受験しているのですか。
- 青木教育総務係長 級までは把握していません。
- 大場委員 自分取る資格だからどうなのかなと思ったのですが、ただこれを推進する以上は、英検や数検の魅力を教えるべきだと思うのですね。例えば私が知っている範囲だと、お茶の水女子大等は高校で英検1級取得済であれば一般教養の英語の考査は免除されます。今は、数検より英検の方が特色入学でとる大学が多くなっているのです、そういった魅力を教えて受験を喚起したらどうかと私は思います。そして中学卒業までに4級を必ず取るという風にするとういのは良いのではないかと思います。私が現職の時に、英検を強く推進し、事務局まで学校内に設置し、検定の会場校でもありました。この辺では古川学園かどこかがしていると思うのですが。各高校でも、大学受験の際の内申等を良くするために英検を取らせています。やはり学校主導で英検の魅力を教えていった方が良いと思います。
- 猪股町長 受験料はどれくらいなのですか。級によっても違うとは思いますが。
- 青木教育総務係長 級によって違うのですが、中学卒業程度の英検3級であれば3800円、数検3級は3000円です。
- 二瓶教育総務課長 今年度の結果ですが、中新田中学校も小野田中学校も1人ずつですが、英検準2級を取得しています。
- 鎌田委員 英検とか数検は、前期入試の出願資格の対象になっている高校もあるので、前に比べれば受験する子が増えてきていますが、今度、前期入試がなくなるので、また違う形になってくるのかなと思います。ただ、意欲を上げるためには良いと思います。

予算とは違う話になりますが、学力テストについてですが、中新田中学校で定期考査を受けてから不登校になったという子がいます。小学校では定期考査はなかったけれど中学校に入って試験を受けた。順位は希望者には出す事になっているのですが、ほとんどの生徒は順位を知りたいので、その順位を知って学校に来なくなったというケースもありました。学力テストが2回というのは、授業分析などをして指導力向上にはつながるし、子供達の意欲向上にもつながるとは思うのですが、安易にテストを増やすというのは、先生方にその辺を周知させていかないと心配なのかなという事も感じました。というのは、加美町の場合、学力層が厚いところで、上の方のレベルであれば試験でやる気も出てくるのですが、低学力層は試験をやる度に自信を無くしていく訳ですから心配な部分があります。町全体で底上げのための施策として、放課後学習とか、土日に塾に行けない子たちを集めて勉強させるとか、そういった事もやっていかないと試験の度に不登校が増えていく心配はあります。

- 田中委員 小野田中学校の場合なのですが、ALTがアメリカの教師の資格がある

ので、割と彼の力と英語の教科担任のコンビネーションが良く、県の英語キャンプなどがあるのですが、小野田中学校の参加者がすごく多い。やはり人が子供たちにどう関わっていくかという事がすごく大事だなと思っています。

- 大場委員 教員研修についていつも思うのですが、学力向上で先進校視察もいいが、もっと大事なのは教員同士で学び合うという事だと思うのですね。あともう一つは、カリスマ講師のような先生の授業を肌で感じる感性といったものも必要だと思うのですね。私も学校を変えるためにいろいろとそういう仕事もしてきました。やはり既存のままの考えでなんとなく行って来た、見て来たという感覚ではなく、学校の教師は研修することにより質の向上がなされなければならない。

医者のように処方箋を子供たちに出せるような教師を育てていく事が、研修の成果だと思うのですね。そのためには、いろんなところを見るだけではなく、自分の英語であれば英語、数学であれば数学の一流の先生の教え方などに触れることも必要です。試験が終わってから見直しをきちんとやっているという学校は、成績も伸びていると思うのですね。回答だけではなく解説がきちんとされている。私も予備校に2年勤めていたことがあるのですが、違う部分がたくさんあるのです。国語などは長文を読むのではなくポイントをどうやってとらえるかのテクニックを教えるのですね。やはりそういった事が受験などを控えていれば、学力におそらく結びついていくのだと思います。先生方の研修が、そういった意味で良い学校を見るよりも、ダメな学校もひとつ見るべきだと思います。あなたならどうしますか、と私もよく言われまして、潰れた進学校を見てこいと言われた事もありました。なぜそうなったか、そういった事をしないようにという逆の発想も必要です。先生方に自分は出来るかもしれないけれど教えることはまた別だと思うので、その辺を意識して研修などをされたらどうなのかなと思います。まず第一歩は、自分たちの仲間で学び合うという事が大事だと思います。そして何が足りないのかという時に外に出た方が良くと思います。

- 猪股町長 授業の公開などは行われているのですか。小野田中学校のALTの授業を他の学校の先生が見るとかそういった取り組みはあるのですか。

- 早坂教育長 今年、小中連携で中学校ごとに小学校や他の中学校の授業を見たり、また各学校でも校内授業研究という事で授業を見合ったりしています。去年から指導主事訪問も、共同の授業作りという事で、一長一短があるのですが、若い先生も年配の先生も一緒になってひとつの授業を作り上げるという事もしています。まず、先生方にお互いの授業を見てもらい学び合うことが一番大事なのかなと思うのですが、この先進校視察というのは、いろんな学校を見てその良さを取り入れ、視察した後それをどう生かすかという部分が一番大事かと思います。何が自分の学校でできるのか、それをやっていかないと研修を受けただけで何も変わらないという事

になってしまいます。普段の授業の参観での磨き合い、意識の改革といいですか、先生方の意欲を引き出すことも併せてやっていかなければならないのかなと思います。

○猪股町長 先生方で学び合うという事でしょうね。

○鎌田委員 学校の活性化のためにはミドルリーダーと、学校を経営している校長さんのリーダーシップがすごく大きいと思うので、ミドルリーダーや校長さん方が先進校視察に行き、そこから学んできた事を学校経営に生かすという事につながっていけば、より良いのかなと、お話を聞いていて感じました。

○猪股町長 確かに実際に、先生が学校を変えたいと思っても、管理者がその気が無いと、どの組織でもそうですが変わらないのですよね。とにかく、頑張っって変えていこうというトップの意識の改革、変革は重要でしょうね。

○早坂教育長 非常に大事ですね。

○鎌田委員 先程、学力向上の話の中で、宮城県は学力が低いというお話でしたが、政令指定都市のどの県もですが、一極集中で進学意欲が高い家庭・子供たちは仙台市に集まってきて、周りはあまり意欲がないという現状で、どこも地方は学力が低いです。仙台市は全国トップクラスなので合わせれば宮城県の学力はそんなに低いわけではないのですが、宮城県の学力は低いと言われています。先生方も頑張っっていろいろやっているという事が全然アピールされていない現実もあると感じています。最初に町長さんがおっしゃった教育力ですが、学力を上げるという事だけでは仙台市に間違いなく歯が立たないという現実がある中で、加美町で特色のある教育力とは何なのだろうという視点で考えていった場合、学力だけでは限界があるので、心を磨くとか体力増強などを意識した教育力アップが必要ではないかと思います。学力を上げたい親はみんな仙台に行っているのですから、人格を育てたいとか自然に親しませたいといった家庭が地方に来るのかな。体力も逆に田舎の方が落ちている現実もあるし、不登校も増えているという事もありますので、そういった事を改善する特色ある取り組みがあれば、加美町で子供を育てたいという意識付けにもなるのではないかと思います。バランスを取っていくという事が大事なのかなという気がします。

○猪股町長 私も同感です。学力だけではないですね。当然のことながら学力というのは人間力の一部ですから。加美町に移住なさった4家族、これから子育てしようという若いご夫婦が、なぜ加美町に来ているかという、ひとつは子供たちを自然が豊かな中でのびのびと育てたいのです。良い大学、良い高校に入れたいという親は田舎には来ないわけですね。そういう親がいる一方で、良い環境でもっと人間らしく育てたいし、自分たちも人間らしく暮らしたいという事なのですよね。

昨日、ゆ〜らんの裏山で、馬で木材を切り出す馬搬をしたのです。私も旭小学

校の子供たちと見学したのですが、これは最高の教育ですね。子供たちはたくさんの気づきがあったと思います。20年ぐらい前に県の教育庁に努めていた時に、今はもうないかもしれませんが統計教育部会というものがありました。統計教育の先進地視察で、秋田県の広野町という町へ行きました。海があり山があり、長い間、フィンランドと交流しているのです。そこにはサンタランドというところがあり、フィンランド人がC I R国際交流に来ていました。その時に、二十代半ばの若い先生が授業をしていたのですが、交流しているフィンランドの村の小学校の子供たちと、広野町の子供たちがどんな遊びをしているかという調査なのです。遊びの順位を棒グラフにしてあり、フィンランドの子供たちのナンバーワンはスケート、次がアイスホッケー、その次がスキーとウィンタースポーツなのです。一方、広野町の子供たちは、20年も前ですが、1番はゲーム、次はテレビ、3番目は漫画です。5番目くらいによく縄跳びが出てくる。まったく違うのです。その先生は、どうしてそうなんだろう、フィンランドの子供たちはどうしてそういう遊びをしているのだろうと問いかけたのです。子供たちは考えながら、冬が長いからではないか、寒いのではないかと答えるのです。では、1年間の気温と降雪量を見てみましょうと言って、棒グラフや折れ線グラフを示すと、子供達は、一年間の半分は冬なんだ、平均気温が零度以下なんだとか、素晴らしい授業でした。

今、フィンランドは世界一幸福な国という事で注目されています。学力もナンバーワンです。この根底に何があるかという事なのです。あくまでも私の想像ですが、子供時代に自然の中で思う存分活動し体力をつける。自然の中で遊ぶという事は、予想しないことに出会う事があるのですね。漫画とかゲームというのはあれは受け身ですよ。ルールの中での遊びです。外で遊ぶと、大きな穴があるかもしれない、雪が落ちてくるかもしれない、そういった予測不可能なところで遊ぶと、いろいろな知恵や想像力など大事な事を自然の中で遊ぶことによって学ぶのです。我々もそうやって学んできましたが、そういう環境に今の子供たちは置かれていない。これは最大の問題だと思っています。その環境で子供を育てることができなのが加美町なのです。昨日、馬搬を見てきて改めてそう思ってきました。ですから、私も本音を言えば、あまり実力テストを増やすとかって事には賛成ではないです。もっと根本的なところなのです。なぜ今、加美町がアウトドアに取り組んでいるかというと、一応、観光の振興ということではありますが、一番は加美町の子供たちにそういう事を体験して欲しい、チャレンジして欲しいのです。

今回、カヌーの艇庫の整備をしますが、一番は加美町の子供たちにもっともっとカヌーというスポーツを楽しんで欲しい。現在、艇庫は無人ですが、人も常駐し、指導者配置し、いつ誰が行ってもカヌーが楽しめる、家族で楽しめる、障がいを持っている方も、お子さんも楽しめる、そういう環境を作っていきたい。我々の世代

は黙っていても、山へ行き川へ行き遊んだ世代ですよ。今の子供たちは放っておいたらそうはしません。そうする仕掛けを我々が作っていく。そこで体力、知力、新しい発想力、お互い助け合いながらやっていくチームワーク、そういった事を身につけて欲しいという事が、実はアウトドアスポーツを推進している一番の根底なのです。ですから、是非そういった事も教育委員会も意識しながら、うまくそれを取り込みながら、真の生きる力、真の学力が身につく教育をしていきたいと思えます。そういうところに、意識の高いご家族が移住してくるのです。昨日も古川で森の幼稚園をしている方々がいらっしゃいました。森の幼稚園というのはヨーロッパでものすごく人気があるのです。朝から3時くらいまで自然の中で子供たちを育てるのです。雪が降っても防寒着を着て公園へ行ったり、山へ行ったりして、自然の持つ素晴らしさに感動する感性を育み、いろいろなものを発見したり、あるもので工夫し遊んだりする。そういう森の幼稚園というものが日本でも普及し始めてきています。実は、森の幼稚園をやっているところに首都圏から意識の高いご家族が移住しているのです。ですから、そういうこともとても大事なのです。

○鎌田委員 ぜひ子供たちにボルダリングとカヌーですね。あと、色麻にいたときに小学校の校長も兼務だったので船形登山を復活させて、スキー教室も復活させようと思っていたのですが異動となり実現できませんでした。私の思いとしては、地元の船形とか薬菜に登り、薬菜のスキーを体験させたいなという思いはあります。まったくスキーを体験せずに大人になった子と、地元の山でスキーを経験した子では何かが違うのかなと思うので、ぜひスキー教室も出来ればと思います。

○早坂教育長 やっていないのは中新田中学校だけですね。小野田中学校と宮崎中学校はしています。

○鎌田委員 以前は中新田中学校もしていたのですよね。パークゴルフなど、やれる素材はたくさんあると思うのです。

○早坂教育長 小野田中学校では総合的な学習の時間で、地域の施設、自然を活かした取り組みというので、独自研究でゴルフなどもしていました。

今、お話を聞いていて、加美町の実態とした時に、学力向上、不登校などが大きな課題なのですね。それを遡ってきた時に、中学校で顕著に出てくる問題だが、では小学校ではどうなのだ、小学校でも課題となっている、では幼稚園ではどうなのだ。そうすると、幼児期、小学校の低学年での体験というのは、すごく大事な気がします。今回、学ぶ土台づくり事業という事で幼児教育を充実させよう。そのためにいろいろと周りの環境を整える事も当然必要だし、やはりその時の体験というのは、すごくその後に影響すると思うのですよね。幼児期、小学校の低学年で基本的な生活習慣ができる、あるいは本を読む習慣だったり、学ぶ習慣だったり、そうするとその後の伸びがグンと違ってくると思うのです。学力テストを2回するという

のは、これは学力だけの向上ではなくて、まず今、落ちている部分を何とか上げよう、普通にしよう、やはり智・徳・体のバランスの取れた子供を育てることが一番で、そういう意味では加美町の子供たちには幼・小・中の義務教育の段階で、加美町の良さを知るための体験といいますか、いろいろな事を経験して、五感を通して感じて学んで、もし町をいったん出たとしても、自分の育った町は素晴らしいと自慢できるような、そしてやっぱり加美町に住みたいと思って欲しい。そういう子供たちを育てていきたい。そういう意味では、どんな体験ができるか、させるか、それはすごく大きな事ではないかと思えます。

そうすると、心身ともにたくましくて優しい子供を育むことができるのではないかと思えます。自分のやりたい事を実現する時にある程度の学力は必要ですよ。それはきちんと自分の夢を叶えるために保証はしてあげなければならない。加美町の良さを分かる子どもたちを育てたいと思えます。

- 二瓶教育総務課長 中学校の学力テストなのですが、2回に拡充するという点に関して、各中学校の校長先生と教育長が面談したのですが、実情としては町の独自のテスト以外にも学校独自でいろいろな模擬試験をやっているのだそうです。なので、それを減らして町のテストに切り替えるというイメージなので、新たにテストを増やすというものではない。むしろ、同じ教科書会社のテストをやることによって、先ほどお話があったような春から冬にかけての分析がきちんとできるという事で、そちらの方が有効であろうという事で、中学校は2回にしましょうかという事です。
- 猪股町長 そういう趣旨であればね。学力向上のために、点数を上げましょうという事にだけ皆が目を向けるのではなくて、先ほど話し合ったような事もね。これからAIが発達すると、算数が得意とかの能力は人間には求められなくなってくるのですよね。AIの方が間違いなく早いしミスがない。ですから、これからは人間性ですよ。求められるのは人間力です。これを持っていない方は、いくら成績が良くても社会では使い物にならない時代が来ます。
- 田中委員 学力経済学という本がありまして、アメリカで40年間調査したデータを分析すると、結局は幼児教育だそうで、お金をどこに一番かければ良いかという幼児教育だとその本ではありました。

20年前になりますが、うちの息子が小野田幼稚園にいた頃は、また行くんですかというくらい繰り返し、荒沢や薬菜に網と虫かごを持って出かけて行ったという経験があるのです。今は荒沢でもどこでも荒れ出したので、熊や蜂などが怖くていつの間にか幼稚園では行かなくなったようなのです。幼児教育が大事だと考える方によっては支援員さんが多過ぎるのではないかとおっしゃる方もいます。同時にうまくしていく事をどうしても大人は介入してしまう。要するに、なかなか勇気がある事なのですが、喧嘩をさせる事も必要だという考えです。本当にお金をかける

のが幼児教育であるならば、ここにかけてみるのも良いのではないかと思います。コーディネーターさんがどのような考えをお持ちの方がいらっしゃるかという事もあるのですが、意外と園内で収まる感じの雰囲気ですとしたいと思います。

- 猪股町長 喧嘩をさせない、危ない事をさせない。そのためにたくさんの補助員を配置させるというのは、はたしてそういうのが良いのかという根本的なところもあるのかもしれませんが。
- 早坂教育長 子供はまだ幼児期なので、家から出てわがままを通しますよね。ぶつかり合っていけばそこで学んでいくのではないか、自分も嫌な思いをして泣く、そうしてそういう事も分かってきますよね。だから、初めから何もトラブルが起きないようにするのはなくて、トラブルが起きて当たり前で、起きた時にどうするかというところだろうと思いますよね。
- 田中委員 ただ、いろんな苦手を持ったお子さんがいて、驚いたのは、先生が何をしようが補助員さんに抱きついて離れずわがままをいうお子さんがいたのです。親ごと一緒に教育していかなければならない部分があると思いました。それが2年目に見た時に、十分他の子供たちと関わられるようになっていて、これは子供たちの力だと感じた指導主事訪問でしたね。
- 猪股町長 私も科学的なエビデンスはないのですが、いろいろな問題をお持ちだろうというお子さんは目につきますよね。そういったお子さん方を自然の中に連れ出したい。どういう風にそのお子さん方が変わっていくのだろうか、自然の力がそういったお子さん方に有効に働く事があるのではないかと考えているのです。そういった事も含めて子供たちとの関わり方に自然の力も借りる、いろんな方の力も借りる、アウトドアやスポーツの力も借りる、音楽の力も借りる、様々なシーンがありますのでね。
- 鎌田委員 自論ですが中学校では、情操教育である音楽・美術・技術・家庭科などの教科の時間がどんどん減らされています。学力を上げる授業というのは子供にとってはつまらなくストレスも溜まります。それを発散できる楽しいな体育や音楽などの時間が無くなってきているというのは、それも不登校が増える要因のひとつになっているのかなと思います。情操教育は小さい頃から育てていければと思いますし、そのためにはきちんと指導できる指導者がいないことには、楽しみが分からないで育ってしまうという事もあるので、その辺の検証も必要かと思います。というのも、小学校の先生も、体育会系とか技能教科の得意な先生が昔はたくさんいたのですが、減ってきている気がします。美術や体育や音楽の基礎を幼児期に教えるためのしっかりした研修が必要なのかなと感じています。
- 早坂教育長 幼児教育もそうですね。保育園教諭、幼稚園教諭も資質を上げてやっていかなければならない。どれくらい自分たちが、子供の一生を考えた時に大事な

時期に関わっているか、小学校の先生方も授業数は減ったけれども、学校生活のどこかでそういう楽しみを持たせられないかという意識を持つ事が必要です。先生方の資質能力を高めていかないといけないのかなと思います。併せて、幼児教育の場には親の家庭教育というのは非常に大きいと思います。学校でできる事、家庭でできる事がありますので、そういった事も視野に入れながら、ひとつずつチェックしながら底上げしていかないといけないだろうと感じています。それを加美町でやっていかなければならない。そうしたら少しずつ変わっていくのではないかと思います。

○猪股町長 学校だけで完結させようとしなくて、様々な人為的な支援を組んで、支援は、加美町はありますからね。

○鎌田委員 幼児教育を突き詰めていけば、妊娠中から関わってきているのですね。喫煙や飲酒や服薬などにより、生まれてくる子に発達障害などの悪影響がある。その辺からきちんとしていければ良いのではないかと思います。

○早坂教育長 子供子育て応援社会というか、子供が生まれる前からの支援ですね。制度だけではなくその辺も見直しは必要かと思います。親をどう親にしていくか、見ていると子供はいるのだけど親になりきっていない保護者がいると感じます。不登校でケアハウスに来ている子供たちを見ても、あるところまでは行くのだけれどどうしても壁にぶつかる。壁って何だろうとコーディネーターの先生たちと話をしていくと、はっきりとは分かりませんが、やはり子供の成育歴、家庭環境などの部分もあるのではないかと感じます。そうすると、すごく大きいですよ。それを変えるのはなかなか難しいと思うのですが、そういう機会を作って1人でも2人でも変えていかなければならないのかなと思います。

○大場委員 いろいろな意見が出ていますが、新聞の記事を持ってきたのです。学校以外で加美町以外の方が加美町の子供たちをどう見ているかについて、12月13日の河北新報の声の交差点に載っていたのです。あまりに嬉しくなって、中新田中学校の校長先生に電話しました。

この記事を見ると、あいさつをされたという事なのですが、気軽に子供たちに声をかけられずにいたが、中学生にあいさつを受けたという話なのですが、このように見られているという事もあるので、こういった事が増えていけば加美町って良い町だな、住んでみようかなという事にも繋がるのではないかと思います。小学1年生の道徳の教科書の1ページ目に、正しいあいさつの仕方とあります。先ほど、教育長からもありましたが、智・徳・体がバランス良くというのはこういうことだと思います。そういう子供が加美町にいるという事をもっともっと拡大してあげたらいいのかなと思います。

○猪股町長 お知らせとして、20日にNHKテレまさむねで国立音楽院が特集で取

り上げられることになりました。一昨日のクリスマスコンサートには、地元の方、100人くらいが集まりまして、生徒たちにより演奏が行われたのですが、その中で、4人のロックバンドに私も加わって演奏してきました。ギターの女の子は高等部の1年生で、もう一人のバイオリンとギターの子もあまり学校に行っていない子、ドラムを叩いていた子は障害を持っていて、ボーカルの子も学校時代は、ちょっと浮いていた子だろうと思われませんが、その子たちのロックバンドがすばらしかったんですが、NHKでは地方創生の取り組みとして、特集を組んでおりますのでぜひご覧ください。

先週、文科省から電話があり、廃校プロジェクトの冊子を5年ぶりに更新するので、上多田川小学校の利活用について、優良事例として掲載したい旨の連絡がありました。

この取り組みは大変評価されており、来年度は入学生も増え、在校生徒が50人を超す見込みで、当初計画よりは少ないものの徐々に浸透してきているので、ぜひ皆さんも活用していただければと思います。

また、チリの関係について経緯等が皆様ご存じないかと思っておりますので、お話ししますが、1960年のチリ地震をきっかけに当時の志津川町と交流があり、3.11の時には、モアイ像が流されたりしましたが、その後、チリから様々な支援があり交流を続けていました。そのような関係から、チリ政府が宮城県で東京オリンピックのキャンプを行いたいとのことでしたが、南三陸町では復興道半ばのため、受け入れができないとのことから、加美町の方に内閣官房のオリパラ推進本部から打診があった。

町としても、震災復興の恩返しでもあるので、宮城県を代表して、受け入れましょうと、そしてキャンプの間に復興状況や地域交流などを経てもらいましょうということで、「ありがとう「復興」ホストタウン宮城」として、受け入れることになりました。

2月25日に、バツハホールにてチリの協議会と調印式を行う予定です。この時には、チリ在中の平石大使もお見えになるとのことなので、東京在中のチリの大使もいらっしゃるのではと思います。そういった方々が立会いの下に、チリのパラリンピック委員会との調印式を行います。その時にはカヌーの選手、コーチ3人も来る予定です。

これらの旅費等につきましては、全額国の負担で行い、来年の7月下旬から8月にかけて、2週間、チリのパラリンピック選手団がキャンプを実施する予定です。

競技種目は決定しておりませんが、これまで議会には15名とお話ししておりますので、カヌー、陸上、卓球、テニスくらいは、受け入れは可能と思われますが、そのほか、チリからはパワーリフティングと水泳の種目を加えた31名を受け入れ

てほしいとの希望をいただいております。条件が整えばということ为前提で国の方には報告している状況です。

カヌー場や宮崎のスポーツ公園が練習会場になる予定です。宿泊は、改修等が必要になりますが、菓葉のコテージを想定していますが、旧3町を使ってキャンプを実施していただく予定です。

私としては、町民の皆さん、特に若者たちや子供たちに障害を持つスポーツ選手、パラリンピアの姿をぜひ見てもらいたい。交流する機会をぜひ作っていきたくて思っております。

夢の教室をできれば、パラリンピアンに来てもらうようにして、連動させながら行っていきたい。ナショナルチームの選手ですので、キャンプを受け入れるノウハウが必要だし、これを機にスポーツという様々なキャンプをこの町で受け入れていきましょうと、スポーツイズムにもつなげていければと思っております。

そういったキャンプを子供たちが見たり指導を受けたりすることが子供たちにもものすごく影響を与えるものと思います。

また、一番の目的は共生社会の実現です。意識もハードも含めて、バリアーのない、ユニバーサルなまちを作っていく、大きなきっかけにし、2020以降にこの町に何を残していくのか、どう町を変えていくのかが非常に重要なことだと思えます。先を見据えた受け入れであると考えています。

○田中委員 一度、町長の方も学び支援に来ていただければと思います。25日から27日までの3日間で、各公民館でやっておりますので。

○猪股町長 英検、数検の件なのですが、もし推奨しようというのであれば、例えば3つの中学校で競ってはどうでしょうか。どれくらいの子供たちが受験したかの受験率が一番多かった学校には、教育委員会から何かをプレゼントしましょうとかね。もしやるのでしたら楽しみながら競い合いながらやるっていうのも少し考えて欲しいです。お金をやってというのは、私はどうかという気がします。なんとかコンテストとか楽しんでね。

○大場委員 前によくやっていました。学校内で英語のスピーチコンテストなどをして外国人の先生方に審査してもらい順位をつけていました。

○田中委員 基本的には英語は、通じた事が嬉しいという事が学びの原点ですね。

○猪股町長 チリからパラリンピックのキャンプ受け入れをすることとなっており、チリから選手がやってきますが、おそらく英語もある程度話せると思います。国際大会に出るスポーツ選手はコメントも英語で求められますからね。子供たちとも英語で交流できる機会があると良いですね。是非、楽しみながら競いながらね。真面目なのも大事なのですが、楽しみがないとね。昨日、馬搬の時に遠野から職人さんがいらして、その方が話していたのですが、ヨーロッパではスクール馬車があ

るそうです。学校に行きたくない子供も馬車に乗りたいから学校に行くそうですよ。子供たちに楽しみがないと。発想を少し変えていきましょうよ。ひいては学力向上につながっていくのではないかと思います。

- 鎌田委員 学校生活は安心で楽しいというのは基本かなと思います。
- 田中委員 先程、大場先生に頂いた記事ではないのですが、いろんな大人が関わった方が良くと常々思っているのですが、以前に比べていろんな大人が関わってくれる時間も場所も少なくなっているように思います。
- 大場委員 高千穂へ修学旅行で行った時に、地元の小学生があいさつする運動と書かれたものを身に着けて、観光客にあいさつをしていました。それが非常に定着して日本全国から良い町だと評価されています。裏で変な風に大人が関わると、子どもの安全うんぬんがあるから、ためらう部分があります。でも、積極的にやったら違うと思うのですよね。

- 猪股町長 子供も大人も元気にあいさつする町になって欲しいですね。子供たちも大人から、おはよう、頑張ってねとか、ひと声かけられたら違いますよね。
- 大場委員 よく役場の1階の公衆電話の前で子供たちが待合していますよね。あれは微笑ましいと思うのです。もっと広くして町民の広場でもあれば良いなと思います。いっぱい子供たちが集まっていて元気を頂きますね。
- 猪股町長 よく外部から来た方に、いいですねえ、子ども達がたくさん来ていて、こんな役場見たことないです、と言われます。
- 大宮委員 学力向上の件ですが、ある程度の勉強ができて、入れるところの高校を出て、あとは勤めれば良いといった具合で志が低いのですね。自分の目標をしっかり持った子供を育てていきたいです。そうでないと、やる気がないというか学ぶ意欲がない子供が多いのではないかと感じております。
できれば、中学校でも職場体験など行っていますが、NHKやIT企業や県庁などへの職場訪問など様々な職業を知る機会を多く作ってあげられたら良いなと思います。
- 鎌田委員 大人の意識と繋がっているから、親も含めてですね。
- 田中委員 こんな世界もあるんだよと、大人が見せるか見せないかって大きいと思います。
- 鎌田委員 子供の視野を、世界を広げてあげると、いろんな選択肢があるわけですね。その中で、これをやってみたいと思った時が学ぶ意欲が湧く時だと思います。
- 猪股町長 志の高い子供たちを育てていきたいですね。予算の方はお約束出来ませんが、優先順位をつけてですね。それでは以上とします。
- 佐藤総務課長 大変ありがとうございました。本日の総合教育会議を以上で閉会と

したいと思います。閉会にあたりまして早坂教育長よりお願いします。

○早坂教育長 長時間にわたる熱心なご協議ありがとうございました。平成31年度予算編成に向けた教育施策に関わる協議という事で、それぞれ各委員さん方の思いも出して頂き、町長からもいろんな考えを示して頂いて、町長と教育委員会で共通理解ができたのかなと思います。ただ、最後にありましたように、やはり子供たちに加美町の良さを知ってもらおうという事と、併せてもっと視野を広げて子供たちの学びに繋がるように志を高く持たせたいなと思います。町の方でも、子供子育て応援社会などいろいろな取り組みをしています。やはり、その取り組みが子供たちにとってプラスになる、町民にとってプラスになるような教育行政の部分と一緒にしていけたら良いのかな、それが知・徳・体のバランスの取れた子供を育てる事になるのではないかと思います。是非、当初予算のトータルの枠は129億ですが、教育委員会のバックアップをよろしくお願いしたいと思います。

あと、教育大綱が平成30年度まで、平成31年度からは、また新たなものになります。大綱そのものは教育目標とか施策の根本的な方針を決めるものなので大幅に変わることはないと思うのですが、これに何か文言の整理ですとか、新たなものを加えるなど、総務課と教育総務課の方で調整しながら、原案ができた段階で皆さんにお示しするという方向になりますのでご理解よろしくお願いたします。本日はどうもありがとうございました。